

## 関係団体の意見と対応

## 【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めて欲しい。</p>	<p>出・洪水や排砂・通砂時の正確な土砂量の把握は、現在の測定技術では困難な状況にあるが、土砂動態の把握のため、排砂シミュレーションの精度向上に努めるとともに、平成16年以降、新たに排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施している。</p> <p>この他、排砂時の流砂量観測や、黒部川河口より海へと流出した土砂量及び土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂実施時のヘリコプターによる空撮、海域での採水調査等を実施しているところである。今後とも土砂動態の把握精度の向上に努めて参りたい。</p>

【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>平成23年度連携排砂及び通砂では、宇奈月ダム下流の河川水質調査において、指標の一部に既往の観測値を超えるものが見られたことから、海面漁業関係団体としては、今年度の排砂時に、現在堆積している土砂が漁場環境や漁業へ影響を与えるのではないかと危惧している。</p> <p>上記を踏まえ、宇奈月ダムにおける堆砂状況を把握するための調査や、漁場環境や漁業への影響がより少ない排砂及び通砂の方法を検討して欲しい。</p>	<p>宇奈月ダム湛水池において、現在堆積している土砂の状況を把握するため、今秋にボーリング調査を実施し、その結果を分析する予定としている。</p> <p>また、平成23年度に実施した細砂通過放流については、第36回黒部川ダム排砂評価委員会において「細砂通過放流の実施により、短時間集中豪雨に対する対策を実施できなかった平成20年に比べて、9月調査時のCODや強熱減量の上昇が抑制されるなど、底質変質抑制の傾向がみられた。」との評価を頂いており、今年度も実施することとしている。</p> <p>今後も、排砂及び通砂の実施方法等を検討・改善することにより、できるだけ自然に近い形で排砂及び通砂が実施できるよう、可能な限り努力して参りたい。</p>

【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>船体の損傷など、流木による漁業への影響が懸念されるため、排砂実施機関においては今後も流木処理等の対応をお願いしたい。</p>	<p>これまでも、黒部ダム、出し平ダム及び宇奈月ダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間前後及び排砂期間中にできるだけ回収している。</p> <p>また、河道内に堆積した流木については、従来から次回の出・洪水時に下流に流出し、被害を及ぼすことが想定されることから、積極的に回収している。</p> <p>今後も、ダム湖内に流入し浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内の流木の回収に引き続き努めて参りたい。</p>

【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	猫又付近の土砂堆積対策について、土砂搬出の具体的方策を検討してほしい。	<p>出し平ダム貯水池上流の猫又地点は、平成7年7月の大出水以降、出水による土砂堆積が顕著であり、同地点に在る黒部川第二発電所及び新黒部川第二発電所のそれぞれの放水口付近において、発電機能維持を図るため、機械掘削を行っている。</p> <p>現在放水路付け替え工事の中の新黒部川第二発電所については、完成後、機械掘削は不要となるが、黒部川第二発電所は、土砂堆積のため、引き続き放水口付近の掘削が必要である。</p> <p>このため濁りの発生が予想される箇所については、仮締め切り施工中に土嚢積みを行い、濁りの発生を極力抑制している。</p> <p>今後とも、堆積土砂処理については、環境への影響を小さくするような方法を検討していきたい。</p>

【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	排砂と魚の生息への影響に対する因果関係について、今後も調査地点、方法を含め検討してほしい。	<p>これまで専門家のご指導を頂き、また、海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス、動・植物プランクトンの調査を行ってきたところである。</p> <p>このうちマクロベントスについては、第37回黒部川ダム排砂評価委員会において、既往環境調査に対する分析（マクロベントス解析）について報告し、「既往環境調査結果に対する分析により、黒部川周辺海域に関する状況がこれまでよりも把握できたので、本委員会では出された意見を踏まえ、実施機関で検討し、引き続き分析を進めること。」との評価を頂いている。</p> <p>これを踏まえ、専門家の助言・指導を頂きながら、引き続き魚の生息環境の変化の把握に努めて参りたい。</p>

【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>第36回黒部川ダム排砂評価委員会での評価において、「アユの肥満度について、出・洪水時において一時的に影響をうけるものの、その後は回復していることが確認できた。（一部略）今後も調査継続して、結果を注視していく必要がある。」とあるが、組合としてはアユの成育・生息環境への影響について危惧しているところである。</p> <p>そのため、今後も排砂を含む出・洪水が魚族にどのような影響を与えるのか調査を継続し、魚族の生息環境改善に務められたい。</p>	<p>実施機関では、魚類の生息環境への影響については、専門家のご指導ならびに内水面漁協の方々のご協力を頂きながら、その調査・分析に努めてきたところである。</p> <p>ご指摘の点については、第36回黒部川ダム排砂評価委員会での評価も踏まえ、引き続き、専門家のご指導ならびに内水面漁協の方々からのご協力を頂き、調査・分析に努めて参りたい。</p>

【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>現在実施されている自然流下後及び排砂後の措置後における放流量の絞り込みは、下流河川における水位低下が顕著で、魚族の生息環境に影響を与えると考えられるため、ダムからの放流量や放流方法について引き続き検討を図られたい。</p>	<p>平成17年度から排砂及び通砂後に河床に堆積する砂泥分をフラッシュする目的で実施している排砂後及び通砂後の措置の効果については、第32回黒部川ダム排砂評価委員会において「連携排砂および連携通砂により河道内に堆積した泥分の割合が、排砂後および通砂後の措置の試行により、減少していることを確認できた。」との評価を頂いている。</p> <p>実施機関としては、排砂及び通砂後の措置実施時の流況にもよるが、ダムからの放流量や放流方法について今後検討を進めていくとともに、これまで同様、水生生物の生息環境への影響に対する調査や分析に努めて参りたい。</p>

【平成24年度連携排砂計画及び平成24年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>出し平・宇奈月ダムの連携排砂の必要性と処置方法を、地域住民により深く周知され、理解と協力が得られるよう、常に関係市町と連携を深めながら鋭意努力願いたい。</p> <p>天候の状態や農作業の時期的な影響を考慮し、連携排砂、連携通砂、豪雨時の停止と合口用水路の取水停止が連続し、長期化しないような実施方法を検討願いたい。</p> <p>農業関係団体において、4月から9月が農業用水の最も大切な灌漑期であり、農家の協力と理解が不可欠であることを十分認識願いたい。</p>	<p>連携排砂実施機関では、連携排砂及び通砂について、これまでも文書や来訪者からの意見、質問への対応はもとより、勉強会・説明会等の要望に応じるなど、関係市町のご協力を得ながら、様々な形でご理解とご協力が得られるよう、努めてきたところである。</p> <p>今後とも、連携排砂及び通砂について、地元自治体等とも相談を行いながら、ご理解いただけるよう、努めて参りたい。</p> <p>及び</p> <p>排砂は、環境への影響を小さくするため、土砂変質を防止し、できるだけ自然の土砂流に近い形で、毎年、確実に行っていくことが必要であると考えている。</p> <p>通砂は、排砂後の一定規模以上の出洪水発生時において、上流から流入する土砂を貯水池内に貯めないよう、通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の土砂量を減らし、環境に与える影響を極力低減させる観点から、必要なものと考えている。</p> <p>今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討を行って参りたい。</p>